

2025.7.1

143

もくじ

- ◆2 保護財団設立からこれまでのあゆみ
～55年をふりかえって
- ◆4 郷土芸能の技と魅力あふれるステージ
「京の郷土芸能のつどい」を開催！

◆10 ◆8

保護財団の活動

てくてく文化財～まち歩きのススメ～（第6回）
琵琶湖疏水「国宝指定」「岡崎南部」の近代化
～京津線廃線跡を歩く～

京都市文化観光資源保護財団 アドバイザー 松田 彰



公益財団法人 京都市文化観光資源保護財団
Kyoto cultural tourist resources protection foundation

今報



保護財団設立からこれまでのあゆみ ～55年をふりかえって

京都市文化観光資源保護財団（以降当財団）の設立経緯や、財団を支えてくださっている会員の方・元財団職員のお話を通して、財団の歴史を振り返ります。



急速に失われる文化遺産を守るために

2025年、大阪・夢洲では「大阪・関西万博」が開催され、世界中から多くの方が関西、そして京都へ訪れています。当財団設立当時も、ちょうど翌年（1970年）の大阪万博を目前に控え、京都の文化観光資源を求めて来訪する観光客が急増していました。また、戦後日本が急激に経済成長を遂げた高度経済成長期真っただ中であった当時は、その発展の影で多くの文化財が破壊され、文化財を取り巻く環境が変貌した時代でもありました。

しかし、文化観光資源や施設に関してはこれに応える十分な保護と態勢が整備されておらず、貴重な文化財や歴史的自然環境が日々損なわれていました。このような状況の中、京都の文化財保存に深い关心を寄せる有志が集い、1969年12月、当財団は設立されました。以降半世紀以上もの長い間、全国の法人・個人の皆さまのご支援により活動を継続しています。

再び関西で万博が開催される前年の2024年、当財団は設立55周年を迎えました。文化財保護を取り巻く状況については、近年の少子高齢化、地域の過疎化に加え、ここ数年の海外からの観光客の急増、文化継承の意識の変化などの新たな課題に直面し、また国や府市といった行政の支援対象外ではあるものの歴史的価値のある文化財への支援が益々必要とされています。

昨年度は民俗芸能を伝承する方々の発表の場である「京の郷土芸能のつどい」を開催したほか、新型コロナウイルス流行以降さらに深刻な課題となっている後継者育成のための助成金制度創設等新たな事業にも着手しました。「京都の文化遺産を守り、未来につなぐ」という当財団の存在意義、使命を引き継ぎ、これからも取り組んでまいりますので、引き続き当財団へのご支援をどうぞよろしくお願ひいたします。



財団の3つの事業

当財団では、京都市内の文化財をその自然環境とともに保護し、後世に伝えていくために、以下に掲げる事業を行っています。またあわせて文化観光資源に関する調査研究事業を行っています。

保護事業

1 京都を代表する四大行事（葵祭、祇園祭、京都五山送り火、時代祭）に対する助成

古都京都を代表する四大行事を後世に引継ぐために、その執行にかかる費用や使用される鉢や衣装などの修理に係る費用に対して助成を行っています。

2 京都市内の文化財である建造物、美術工芸品の修理や庭園、史跡、天然記念物の保全に対する助成

寺院を中心に数多く伝えられてきた、日本文化の源流である各時代の優れた芸術である障壁画（襖絵など）や仏像などの修理に対して助成を行っています。

※建造物や美術工芸品等の助成は、行政の補助が及ばない「未指定」の文化財であり、かつ後世に継承するに足るものと/orしており、対象となるかどうかは、学識経験者からなる文化財専門委員会において審議、選定を行っています。

3 伝統行事・芸能の保存及び執行に対する助成

京都には、四大行事以外にも長い歴史と時代の変遷を伝える多彩な行事・芸能が、それぞれの季節にどこかで行われています。当財団では、これらの伝統行事や芸能の保存及び執行に対し助成を行っております。

4 文化財をとりまく自然環境の保全や施設整備に対する助成

自然環境の保全に対する助成 文化財を所有する社寺境内の土壠修理や樹木の松毛虫駆除に対する助成を行っています。

文化観光資源施設整備に対する助成 文化財を保護するために設置される自動火災報知設備やドレンチャーの設備・防火用貯水槽新設などの工事に対して行っています。

普及啓発事業

京都の文化財や財団の活動について発信しています。半世紀近く開催してきた「郷土芸能のつどい」のほか、文化財講座や小学生対象の伝統文化親子教室の開催など、伝行事等文化財の奥深さに触れることができる事業を企画しています。



伝統文化親子教室「剣鉾差し」体験の様子
(令和4年9月)



文化財講座の様子
(令和4年3月)

会員事業

財団の活動を支えてくださっている会員の皆さま限定の会員事業。伝行事の鑑賞会や非公開文化財の特別鑑賞など、京都の文化財の魅力を再発見して頂ける事業を年に数回実施しています。



「広河原松上げ」鑑賞事業の様子(平成14年8月開催)

祖父の思いをつなぐ

岡 雅之

京都市北区大宮 会社役員



私の本財団とのご縁は、祖父の秀有喜（ひでゆき）より受け継いだものです。滋賀で育った祖父は、学卒後奉公を経て昭和16年に織維雑貨商を始めるや、関西から東海地方までを休みなく渡り歩いておりました。召集により出征し、復員を果たしたのちは、腰を据えて商いに励みたいとの思いを胸に、開業の地を吟味し、昭和22年に京都市中心部に小さくも社屋を構え綿布加工卸業を営みました。爾来長き時間を経て時代の波にのまれながらも、社業を発展させ、円満な家庭を築いていくことができました。それらはひとえに京都の地にて皆さまからのお力添えを得た賜物であり、商売人たるわが人生の礎はこのまちによって育まれたと、そして京都の持つかけがえのない魅力を守らんと励まれる本財団への寄付を通じて微力なりともご恩返ししたいと、祖父はよく口にいたしておりました。ありがたくもご推挙により、長きにわたって本財団評議員の委嘱をいただけたことを、ひとえに誉れに感じていた祖父でもありました。京都市に生まれ育ち、幼少の折からそんな祖父の姿を目の当たりにしていた私は、在りし日の祖父を思いつつ、京都の魅力を後世に繋ごうと尽力される方々の活動を本財団の「会報」を通じて学び、祖父にならって寄付させていただいております。

「京都市文化観光資源保護財団」とともに歩んだ人生

赤井 久克

(元当財団職員)
滋賀県大津市



私はこの財団が設立された翌年から43年にわたり勤務し、京都の文化遺産の保存継承に携わられる方とそれを支援される方との間をつなぐパイプ役のような仕事をさせていただき、少しですが京都の文化遺産をまもる役割を果し、良き仕事人生を送りました。

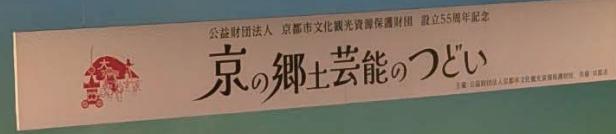
この仕事をはじめた当初は財団活動の原資となる基盤10億円募金を達成するための取り組みでした。京都の文化遺産を国民運動でもらうと呼びかける募金活動は全国で初めてで何の実績もないことから目標達成には5年近くもかかりましたが目標達成から今日に至る55年、絶えることなくご支援いただいていることに深く感謝しています。これは募金活動とともに取りくんでいた文化財保護思想の啓発活動にあったと思います。いただいた寄付金で助成した文化財の修復事業の特別公開、郷土芸能の舞台公演事業などもその一環の啓発活動でしたが、文化財保存事業の助成だけでなくその活用にも積極的に取りくんだことがこの財団の設立趣旨を理解いただく力となったものと確信しています。

長い歴史の中で培われてきた京都の文化遺産を保存継承する財団の活動はまだ半世紀にしかすぎませんが、多くの方々の支援により今日につづけてきたこの活動が次代へつなぐ大切な活動であると信じます。会員のみなさんのさらなる支援をお願いいたします。

京都の文化遺産を未来へつなぐ活動には終わりはありません。

「京の郷土芸能のつどい」を開催！

郷土芸能の技と魅力あふれるステージ



令和7年2月22日(土)、ロームシアター京都メインホールで財団設立55周年記念事業として「京の郷土芸能のつどい」を行いました。おかげ様で1600名のお客様にお越しいただき大盛況でした。

出演団体のロームシアターでの熱演の写真をお届けするとともに、今後の予定をお知らせします。ぜひ次は地元での活躍をご覧ください。詳細は各団体のHP、X、インスタグラム、公演会場でご確認ください。



(紫字は2月22日の演目)



壬生六斎念佛講中

メドレー
＜オープニング＞壬生六斎特別組曲 ／＜第二部＞巴鼓、獅子舞
【次回公演予定】8月9日19時▶壬生寺（京都市中京区）



京都鬼剣舞

＜第一部＞一人加護 ／＜第二部＞刀剣舞

【次回公演予定】9月13日(土) 17時30分▼

三竹山一言主神社（茨城県常総市）「奉祝祭」

12月7日(日)▼

京都国立博物館講堂（千本ゑんま堂狂言とコラボ公演・申込制）

12月22日(月・冬至) 15時▶一言主神社（奈良県御所市）「一陽來復祭」



久世六斎保存会

やぐら、四つ太鼓、源平盛衰記、祇園囃子

【次回公演予定】8月31日19時30分▼

蔵王堂（京都市南区）



千本ゑんま堂大念佛狂言保存会

たかむらめい ど ばなし
篁 冥途嘶

【次回公演予定】9月21日13時30分▼

「京の鬼と伝統芸能その1」京都市醍醐交流会館（京都市山科区）申込制<千本六斎念佛とコラボ公演>
12月7日13時30分▼

「京の鬼と伝統芸能その2」京都国立博物館平成知新館（京都市東山区）申込制（博物館への入場料要）
<京都鬼剣舞とコラボ公演>

12月21日13時30分▼

財団主催（京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター共催）

「大念佛狂言の声と音—千本ゑんま堂大念佛狂言に聞くー」

京都市生涯学習総合センター（京都アスニー / 京都市中京区）無料・申込制 ほか



左から司会の
荒山沙織さん、桂南光さん、八木透先生

有田神楽団

やまたの おろち
八岐大蛇

【次回公演予定】10月15日19時 有料▼

広島県民文化センター（広島市）

「ひろしま神楽定期公演」

10月25日21時～明け方まで▼

有田八幡神社（広島県北広島町）

「秋祭り前夜祭」 ほか



表紙解説

「久世六斎念佛」

世界無形遺産に登録されている「京都の六斎念佛」を保存している久世六斎念佛保存会によって継承されている。江戸時代中期には千葉寺系念佛六斎を伝えてきたが、その後空也堂系の芸能念佛へと変遷し、庶民の娯楽としての念佛を確立した。

現在は16曲を継承し、毎年8月31日の京都市南区の蔵王堂光福寺では「一山打ち」という全曲を披露している。表紙は「京の郷土芸能のつどい」で演じられた最も難しいとされる「やぐら」という曲打ちである。

写真提供／三宅 徹



西之京瑞饋神輿

京都の秋祭りの先陣を切って10月1日から5日間おこなわれる「北野祭 神幸祭・還幸祭(※)」。北野天満宮(京都市上京区)の祭礼として知られています。

祭の初日、神幸祭において天満宮の御祭神が移された3基の鳳輦が、西ノ京御輿岡町(中京区)にある御旅所に渡御します。この時、渡御した鳳輦と並んで駐輦しているのが、芋茎や野菜、果物といった農作物や乾物で色鮮やかに飾られた「瑞饋神輿」です。

4日の還幸祭の日、瑞饋神輿は台車に載せて曳かれ、区域内をまわって本社まで巡行し、再び御旅所に戻ります。神輿行列は太鼓や高張提灯をいれると6、70人にもなり、多くの見物客で賑わいます。

また、同時に子ども神輿も巡行し、こちらは小学生が大人の瑞饋神輿とは別のルートで元気よく巡行しています。

瑞饋神輿は、かつて北野社領の神人が五穀豊穣を感謝して新穀・野菜・果物などを盛った神饌を獻じていたものが室町時代に昇き始められ、慶長年間(1596~1615)に神輿型の造り物に発展、その後享和2年(1802)に現在の四方千木型となったとされています。幾度かの中斷を経て継承されてきた瑞饋神輿は、現在西之京瑞饋神輿保存会の方々の手で毎年9月1日から趣向を凝らして製作されており、神幸祭当日に完成を迎えます。

※令和6年「瑞饋祭」より名称変更

瑞饋神輿と私 隨感

西之京瑞饋神輿保存会 荒田 匡



瑞饋神輿は農作物などで飾る全国的に珍しい神輿です。会員である2軒の農家で材料となる作物を毎年育てており、屋根を葺くためのズイキのほか千日紅、赤茄子、五色唐辛子、稻は農家でない会員も収穫などの作業を手伝えます。このほかにも大麦、胡麻、葱、水菜なども会員の畑で育てられています。天候の影響を受けるので、その年の野菜の出来具合に合わせて例年どおりの飾り付けをするのが難しい年もあります。

入会して最初に携わるのは千日紅摘みです。私はこれが神輿でどう使われるのかも分からず、「大きい花だけ摘んでや」と言われて作業していました。その後、先輩からいくつかの作業を教えてもらいましたが、未だよく分からぬ作業もあります。昔はそれぞれの作業に長けた先輩がおられ、先輩諸氏の作業を手伝いながら覚えていったように思います。今は会員が減ってきたこともあります。しかし、私がいくつかの作業をしなくてはいけなくなっています。しかし、私達が細工と呼んでいる人や動物などを題材とした神輿側面に付ける飾りづくりは毎年担当する会員が題材選びに苦心しますが、近年は新しい会員も積極的に取り組んでもらえるようになってきました。私自身は、自分が受け持つ細工の題材に毎年頭を悩ませ、屋根葺きや縄のできが少しでも良くなるようにまだまだ精進しないといけないと感じています。

私が入会した平成の半ば頃は自営業の会員が多数居ましたが、近年は仕事の都合で平日の行事に参加出来ない人が増えています。近年は神輿づくりや巡行を手伝ってくださる近隣の方が増え心強い面もありますが、新しい会員の確保、育成が大きな課題です。

また、当保存会では西之京瑞饋神輿を題材に研究されている大学の先生を招いての講演会など祭、神輿の歴史を学ぶ機会も設けてきました。その中で室町時代から400年以上続き、往時は7基もあった瑞饋神輿の中で唯一残った神輿を今後も続けていかなければならないという気持ちが強くなっています。

皆さんに瑞饋神輿を見ていただき、励ましの言葉を頂くことが地域を盛り上げる活動を続ける原動力になっているのではないかと思っていますので、今後も御支援をお願いします。



巡回前の瑞饋神輿



夜なべ作業の様子



巡回中の様子

伝統行事・芸能功労者に聞く

京都には個性豊かな数多くの伝統行事・芸能が受け継がれています。京都市文化観光資源保護財団では、京都の伝統行事・芸能の保存と継承に功績のあった功労者に対する表彰を、昭和45年度より京都市とともに行っており、令和6年度は12の保存会より12名の方々を表彰いたしました。小山二ノ講と上鳥羽橋上鉢講中の受賞者の方に、それぞれの伝統行事・芸能についての想いをお伺いしましたので、ご紹介します。



令和6年度受賞者の皆さん ウエスティン都ホテルにて

小山二ノ講保存会

「小山二ノ講の保存と継承」 竹谷 武雄 さん

二ノ講は大蛇伝説で1313年牛尾山の麓に生息していた大蛇を退治したことでその後、大雨洪水が度々起り、大蛇の祟りを恐れ藁で作ったのが始まりです。

山の神を祀る行事で小山地域は昔、農林業で生活をして山岳信仰と五穀豊穣や無病無災を祈り、毎年2月9日に勘請縄掛けの事業が行われ1997年4月に京都市無形民俗文化財に登録され永く保存する



ニノ講の作業に参加した皆さん



蛇の上あごと下あごを分離して頭部をつくり、胴体をつくる準備作業

とともに、郷土の紹介と活性化に努めています。
当家の選出方法は一年前に決められ、父が他界、分家などにより当主となった者で自分から申し入れ、翌年当家を務め当家の親戚と白石神社の総代と長老に参加をいただき作業し、山の神に奉納し慰労会を開催しました。2年前から小山二ノ講保存会を設立し継承者の育成、運営方法並びに経費等について見直し、技術の向上に努めています。

令和6年度、伝統行事芸能功労者表彰を受賞して、当会の発展にさらに努めて参ります。

上鳥羽橋上鉢講中

「表彰を受けての思い」 塩津 祐輔 さん

この度は伝統行事・芸能功労者として表彰して頂き誠にありがとうございます。またご推薦頂いた公益財団法人京都市文化観光資源保護財団の皆様や上鳥羽橋上鉢講中の川勝会長に感謝申し上げます。

私が講中に参加した当時、10名余りの先輩方が在籍されておりました。本来であれば私よりも先に表彰されて然るべき方々であります、時代の移り変わりとともに私が次の年長者となり表彰されることとなりました。先輩方が功労者であったことにかわりないです、この賞は皆を代表して私が受け取ったと思っております。

表彰後の懇親会において各分野でご活躍されている方々との交流がありました。まず皆さんの活動に対する熱意に驚かされ、そして真摯に取り組む話を聞くことで刺激を受けることができました。同じ行事であっても、少し形を変えるだけで独自色を出せて、それがいつしか伝統になっていく様はとても印象的でした。

各表彰者や団体では後継者の育成に苦心しながら取り組んでおられます。この賞の存在がその問題に大いなる助けとなることを期待しております。



淨禪寺での奉納



公演の様子

保護財団の活動

文化観光資源保護事業

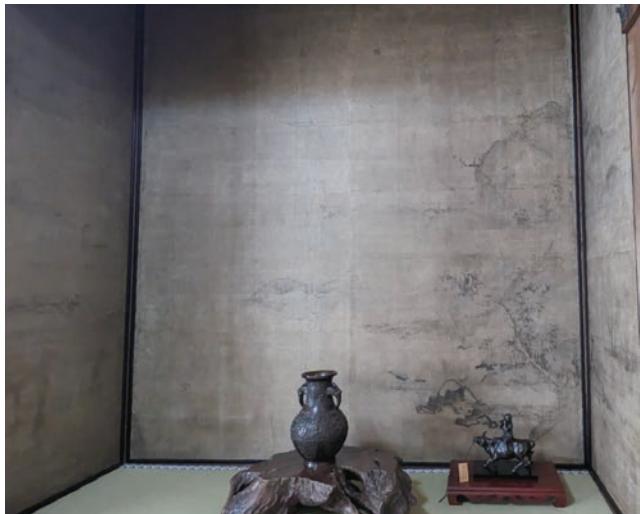
令和6年度文化観光資源保護助成事業 修復・継承された文化遺産

令和6年度文化観光資源保護助成事業について、12月6日に開催された本財団専門委員会において選定された総件数64件の保護事業に対し、総額6,112万円の助成金を交付しました。この助成事業は会員の皆様からお寄せいただいている寄付金を活用しているものです。その内訳は美術工芸品の修理に対する助成が5件で350万円、伝統行事・伝統芸能の保存及び執行に対する助成が45件で5,348万円、伝統行事・伝統芸能次世代承継事業に対する助成が13件で160万円、文化観光資源をとりまく自然環境の保全及びその整備に対する助成が1件で254万円となります。ここでは修復された美術工芸品及び継承された伝統行事のいくつかを紹介します。

しゅんぽういん 春浦院の障壁画修理 (京都市右京区)

春浦院は、臨済宗妙心寺派大本山妙心寺の南東に所在する境外塔頭で、昭和37年（1962）、新丸太町通敷設に伴い境内の多くを割譲しており、現在の境内はこの時に整備されたものです。

今回修理を行った紙本墨画山水人物図障壁画三面は、方丈の上間二之間にある床壁貼付けのもので、「雪溪筆」の落款があり、作者は江戸前期から中期の画家、山口雪溪であることがわかります。湖とその岸辺近くに浮かぶ荷物を載せた小舟、向こう岸には小屋、さらに遠くには寺院の塔が木々の間から見えています。三面共、縁に烈しい虫喰いがある他、縦横に多数の折れや亀裂が生じている箇所が見られること等から修理を行うこととされました。



りょうしょういん 良正院の木造阿弥陀如来立像修理 (京都市東山区)

良正院は、浄土宗総本山知恩院の塔頭で、神宮道を挟んで黒門の向かい側に位置します。

江戸時代初期の寛永年間に岡山藩主池田忠雄が、生母で徳川家康の娘督姫の菩提を弔うため本堂が建立され、寺名も督姫の法号にちなんで「良正院」とされました。

今回修理された木造阿弥陀如来立像は、室町時代の作で、本尊としてこの本堂に安置されています。本堂は寛永8年（1631）建立の方丈型の造りのもので、国の重要文化財に指定されています。本像は、檜材の寄木造りで、足先を広げて蓮華座上に立ちます。

本像は経年による剥落が進行する状態にあることから、修理が行われました。

こうしょうじ 迎称寺の木造童子形立像修理 (京都市左京区)

迎称寺は、紫雲山引接院と号する時宗の寺で、かつては京極一条にあり一条道場迎称寺とも呼ばれていましたが、江戸時代中期の寺町一帯の火災によって焼失したため、ほどなく鴨東の現在地に移っています。



今回修理を行った木造童子形立像は、昨年屋根修理を行った本堂に安置されている像で、室町時代の作とみられています。

檜材の寄木造で、髪を中央で分け、美豆良を結う童子形です。両頬にはえくぼをあらわします。経年による劣化がすすみ、特に両足先の矧ぎ目が離れ、足柄の欠損により自立することも困難な状況であることから修理を行うこととされました。



法輪院の木造阿弥陀如来立像修理 (京都市左京区)

天台宗法輪院は、真如堂の通称で知られる真正極楽寺の塔頭寺院の一つで、寺伝によりますと法輪院の創建は文明17年（1485）の室町時代であると伝わります。

今回の修理に際してファイバースコープによる像内調査が行われたところ、銘文及び納入品が確認され、本像の制作が「建長五年（1253）」まで遡ることが確認されました。

また、「院寛法印の子 院蓮」と作者名があり、鎌倉中期の院派仏像として、とても重要な発見になりました。



地蔵寺の木造地蔵菩薩坐像修理 (京都市左京区)

延命山と号する天台宗地蔵寺は、寺伝では、康應元

年（1389）、鞍馬山に純盛上人が開創すると伝えます。現在は天台宗比叡山延暦寺の末寺ですが、もとは鞍馬寺の末寺でもありました。

今回修理を行った木造地蔵菩薩坐像は、鎌倉時代の作で、檜材の寄木造り、錫漆下地で彩色仕上げを施します。

各所に経年による彩色の浮き上がりがみられる他、接合が離れ危険な状態の個所もあること等から修理を行うこととされました。



伝統行事 日野裸踊 (京都市伏見区)

日野の法界寺において、元日から続く法会（修正会）が終了する結願の日にあたる1月14日、阿弥陀堂の縁側にて精進潔斎した禪姿の男性が両手を挙げ、「ちょうどい（頂礼）、ちょうどい」と掛け声を発しながら背と背を激しくぶつけ合い、その年の無病息災、五穀豊穰を祈願します。普段は静かな境内ですが、行事当日は300人ほどの見学者で賑わいます。



令和7年度文化観光資源保護事業助成申請の募集・受付を行いました。

令和7年度の文化観光資源保護事業の助成申請の募集と申請受付を行いましたところ52件の相談、申請がありました。内訳は、文化財所有者、管理者の行う文化観光資源保護事業6件、伝統行事、伝統芸能保存・執行事業45件、文化観光資源をとりまく自然環境の保全事業1件です。

本年度、助成申請のあった修理事業は、萱尾神社（伏見区）の拝殿修理と祇園祭太子山（下京区）の聖徳太子厨子修理が建造物の修理で、また美術工芸品の修理では常徳寺（北区）の木造地蔵菩薩立像修理、神泉苑（中京区）の弁財天十五童子像修理、悲田院（東山区）の木造阿弥陀如来立像修理、淨禪寺（南区）の木造阿弥陀如来立像修理などがありました。

伝統行事・伝統芸能後継者育成の資金確保のためのクラウドファンディングを実施します

京都では個性豊かな伝統行事・芸能が地域の方々を中心に守られ、現代まで受け継がれてまいりました。しかし、近年の少子高齢社会の到来や文化継承の意識の変化、地域の過疎化、資材の高騰等により、次世代への継承が難しく、規模縮小ややむを得ず中止となる行事もあるのが現状です。そこでこの度、文化の継承・地域全体の活性化につなげていくため、昨年に引き続き伝統行事・芸能後継者育成の資金確保のためのクラウドファンディングを実施します。皆さまのお力添えをよろしくお願い申し上げます。

実施期間：令和7年7月17日(木)～10月14日(火)

詳しくは7月中旬に財団ホームページに公開予定です。



文化財～まち歩きのススメ～（第6回）



琵琶湖疏水「国宝指定」『岡崎南部』の近代化～京津線廃線跡を歩く～

京都市文化観光資源保護財団 アドバイザー 松田 彰
(写真撮影も)

1869（明治2）年の東京遷都で意氣消沈とした京都を立て直したのが、国宝に指定されることとなつた琵琶湖疏水と京都三大事業。この京都の近代化は岡崎に大きな変化をもたらしました。その中心は疏水と岡崎公園でしたが、その周辺にも様々な痕跡が残っていますので、岡崎の近代化を巡りましょう。

琵琶湖疏水が完成したのは1890（明治23）年。95（同28）年に第4回国勧業博覧会が岡崎で開催され、京都電気鉄道（京電、後の市電）が木屋町二条から南禅寺まで営業開始。博覧会5年後に蹴上で「都ホテル」が開業し、1907（同40）年には京電が蹴上まで延伸しました。

琵琶湖第二疏水が1912（同45）年に完成し、市電が営業開始。元号が大正に改まったこの年、京阪京津線が三条大橋駅ー札ノ辻駅（現上栄町駅付近）間で開業し、1915（大正4）年に大正天皇の即位を記念した大典記念京都博覧会が岡崎で催されました。28（昭和3）年には昭和天皇の即位を記念した大礼記念京都博覧会が開催されています。こうして蹴上が大津・山科方面からの玄関口となっていました。この時の京津線ルートは三条通よりも北でしたが、1931（同6）年に三条通に移設され、廃線跡の一部が道路として利用されています。博覧会跡地は公園として整備され、南禅寺周辺は別邸群が、疏水本線沿いには疏水を利用した産業施設が集積。岡崎南部の白川沿いには七宝制作や染色業など、水流を利用した産業も展開されました。

岡崎公園の南を歩くと、琵琶湖疏水と博覧会を軸にした岡崎の近代化を町のあちこちで見つけることができます。蹴上駅を北に上がった蹴上交差点の南に「都ホテル」（現ウェ



三条蹴上交差点付近（右が蹴上発電所）

スティン都ホテル京都）、北に1912（明治45）年完成の第2期蹴上発電所があり、明治由来の建物が向かい合います。その発電所の西側を北西に上がる道路、これがかつての京津線です。この線路はここから旧白川沿いを通って古川町商店街あたりまで弧状に敷かれていました。

蹴上発電所の北には南禅寺参道前に無鄰庵が建ち、そこを西に行くと南禅寺惣門のある町並みが残っています。白川とかつての線路が



「水車の竹中」

交差したあたりには、「水車の竹中」と呼ばれた精麦工場の竹中家があり、母屋、工場の一部と石組水路が残っています。白川沿いを下れば登録文化財の並河靖之七宝記念館が清らかな白川と相まって美しい景観を醸し出しています。琵琶湖疏水南側には武田五一設計の藤井斎成会有鄰館なども建っていて、岡崎南部は明治以降急激に近代化していった姿をいろいろなところで見つけることができます。



《歩いた距離 2.4キロ、歩いた時間 0.6時間》

会員寄附者 芳名録

ご支援・ご協力ありがとうございました
寄附金 芳名録（敬称略）

ご寄附をいただきました皆様のご芳名を掲載させていただきます。名簿は寄附受納順にご紹介しています。

2025.1.1～2025.4.30

【一般寄附金】

法人

【特別会員】

株式会社近鉄・都ホテルズ ウエスティン都ホテル京都 総支配人 長尾修二（京都市）

山田織維株式会社 代表取締役 山田芳生（京都市）

東レエンジニアリング株式会社 代表取締役社長 岩出卓（大津市）

【普通会員】

車折神社 宮司 高田能史（京都市）

宗教法人 林丘寺（京都市）

京都シニア観光ガイド倶楽部 櫻井勉（京都市）

【賛助会員】

宗教法人 東海庵（京都市）

宗教法人 十輪寺 代表役員 泉浩洋（京都市）

NPO法人 大文字保存会 理事長 長谷川英文（京都市）

雲龍院 代表役員 市橋朋幸（京都市）

万足屋きむら 木村幾次郎（京都市）

個人

【特別会員】

上川 正（京都市）

耕納 英一（京都市）

伊勢 初枝（京都市）

伊勢 和夫（京都市）

伊勢 芳夫（尼崎市）

小寺 啓介（京都市）

伊藤 昭（京都市）

上村 和直（大山崎町）

糟谷 範子（京都市）

林 節治（京都市）

岡 雅之（京都市）

佐藤 正年（京都市）

河内 壬子（高槻市）

杉丸 一美（宇治市）

渡辺三根子（枚方市）

石川かず榮（京都市）

渡邊 正勝（横浜市）

太田 索次（愛知県幸田町）

中村 哲也（京都市）

浅野 明美（京都市）

ほか匿名5名

【普通会員】

稻垣 保彦（津市）

稻垣 幸子（津市）

上条 誠（長野県塩尻市）

中村 洋（八幡市）

山下 淑夫（京都市）

藤ノ木紀子（東京都渋谷区）

川並 宇（神戸市）

高須 良弘（大阪市）

田中 一幸（堺市）

田中恵美子（堺市）

平山 和男（大津市）

堺 紀恵子（京都市）

松澤 宏樹（京都市）

濱口 大輔（千葉県市川市）

山田 順子（長岡京市）

宮本としか（吹田市）

奥村彰太郎（東京都杉並区）

北川 浩司（岐阜県各務原市）

井上 聰（大津市）

風戸由紀子（千葉県成田市）

北村 雄司（京都市）

本島ひろみ（大津市）

本島 裕二（大津市）

東 清和（大津市）

谷口 幸治（京都市）

中川 博視（京都市）

磯部 守孝（京都市）

中島 弘益（京都市）

堀籠 幹雄（京都市）

村岡 弓子（京都市）

菊井 誠（京都市）

並川 哲男（京都市）

陸 義丞（京都市）

高橋 和子（京都市）

大倉恵美子（高槻市）

近藤 隆（神奈川県相模原市）

梶谷 祥衛（京都市）

岡本 修（城陽市）

山下友香理（京都市）

高奥 英路（京都市）

入江 順一（京都市）

野口 匡（横浜市）

鈴木 隆志（京都市）

藤田 加代（京都市）

永津 国明（静岡市）

藤田 清臣（京都市）

内藤 純子（京都市）

古瀬ゆかり（京都市）

米田 功（大阪市）

根本 昌郎（宇治市）

青山 正男（京都市）

桑原 俊夫（茨木市）

広瀬 裕一（神戸市）

山田美幸子（岐阜市）

安廣 哲幸（神戸市）

鎌田恵理子（京都市）

桃井 三郎（京都市）

田中由美子（吹田市）

小澤 司（京都市）

三崎 正敏（東京都港区）

中川 貴代（名古屋市）

原 小壽（京都市）

神波 順子（京都市）

小林知住子（京都市）

樽井 由紀（京都市）

神崎 由紀（吹田市）

岩崎 勉（京都市）

竹中 祥介（吹田市）

榎 丈滋（京都市）

大西芳太郎（横浜市）

神崎 敏道（吹田市）

森田美智恵（箕面市）

北村 敏郎（岐阜県大垣市）

赤井 明子（京都市）

井口賢太郎（京都市）

谷山 正昭（茨木市）

室田 芳万（草津市）

寺井 正（京都市）

山本 恵子（京都市）

吉川百合子（京都市）

ほか匿名24名

【賛助会員】

松岡 千鶴（京都市）

藤田 隆則（京都市）

宮川 和生（京都市）

久保田繁樹（吹田市）

小池 洋子（四條畷市）

田中 諭（京都市）

廣田 恒夫（京都市）

野田 郁代（京都市）

山下 啓子（京都市）

三代川寛子（京都市）

三好 富貴（京都市）

高見 佳子（京都市）

大原千恵子（吹田市）

片柳 光正（東京都江戸川区）

大柳 礼子（舞鶴市）

大柳 邦夫（舞鶴市）

ほか匿名16名

京都の文化遺産を守り伝える活動の輪を更に広げるために
皆様のご支援・ご協力をお願いいたします

◇皆様からの寄附や新しい会員の呼びかけに一層のご支援とご協力を願っています。また、当財団の活動を紹介していますパンフレットの配布・設置にもご協力下さい。

◇寄附金は、税の優遇措置を受けていただけます。当財団は「公益財団法人」として認定を受けていますので、寄附金は特定公益増進法人として税制上の優遇措置が適用され、個人の方は確定申告により所得税の控除を、法人においては法人税の損金算入が認められています。

会員特典事業

会員の方限定に文化財特別鑑賞等にご招待を行います。参加ご希望の方は、各内容によりお申し込みください。

事業No.25003 「洛東遺芳館」秋季特別公開ご招待

肥後熊本加藤清正公の家臣、柏原郷右衛門を祖とすると伝わる柏原家。江戸期に初代三右衛門が柏屋を創業し、商種商域を広げ、木綿や漆器を取り扱う江戸の豪商として知られました。創業の地の邸宅は、幾多の火難を逃れほぼ当時の商家の姿を残しています。柏屋に伝わる調度品・浮世絵・古文書等がテーマに沿って展示される特別公開にご招待します。

●期間 2025年10月1日(水)～11月3日(月)（月曜休館／但し月曜祝日の場合、通常通り開館）



写真提供／洛東遺芳館

●開館時間 10時～16時（最終受付15時45分）

●場所 洛東遺芳館（東山区間屋町通五条下ル3丁目西橘町472）

●申込定員 70名

※招待券は9月上旬を目途に発送します。

事業No.25004 「泉屋博古館」特別展「生誕151年からの鹿子木孟郎－写実絵画をもういちど－」ご招待

1970年、住友グループの迎賓施設として建設され、住友コレクションとして世界的に知られる中国古代の青銅器や鏡鑑を中心とした美術工芸品を保存・公開してきた左京区鹿ヶ谷の泉屋博古館。約1年の改修工事を経てこの春再始動されました。近代の日本洋画に本格的な写実表現を移植した、住友家にもゆかりの深い鹿子木孟郎（1874～1941）の生誕150年を記念する特別展にご招待します。

●期間 2025年10月1日(水)～10月31日(金)（月曜休館／但し月曜祝日の場合、通常通り開館）

鹿子木孟郎《ノルマンディーの浜》
明治40年(1907) 泉屋博古館東京寄託

●開館時間 10時～17時（最終入館 16時半）

●場所 泉屋博古館（左京区鹿ヶ谷下宮ノ前町24）

●内容 特別展「生誕151年からの鹿子木孟郎－写実絵画をもういちど－」と、ブロンズギャラリー「中国青銅器の時代」の鑑賞

●定員 50名

※招待券は9月上旬を目途に発送します。

事業No.25005 京都古文化保存協会主催「令和7年度第61回京都非公開文化財特別公開」ご招待

寺院・神社などが所蔵する普段非公開の文化財を特別公開する、公益財団法人京都古文化保存協会主催の当事業に招待します。



醍醐寺 国宝 五重塔

●期間 2025年10月25日(土)～11月30日(日)予定

●場所 賀茂別雷神社、光照院門跡、大本山隨心院、總本山醍醐寺、比叡山延暦寺ほか

●定員 150名

※招待券は10月上旬を目途に発送します。

■申込方法 当会報にあわせて送付しています「会員ご招待・優待事業申込」ハガキ又は当財団ウェブサイト（<http://www.kyobunka.or.jp>）の会員サイトからお申し込みください。
お申し込みの際は、必ず事業No.をご記入ください。

■申込資格 会員本人様1名に限る

■申込締切日 8月20日(水)必着

※上記の会員事業は、申込多数の場合は抽選とし、当選者の方のみご送付させていただきます。

※会員限定の事業となりますので、会員期限をご確認の上ご応募ください。なお、会員期限が切れおられる方は継続のご寄付をお願いいたします。

■お問合せ (公財)京都市文化観光資源保護財団 事務局 会員事業担当

TEL 075-752-0235 (平日9:00～17:00)、FAX 075-752-0236

京都市文化観光資源保護財団 会報 No.143
発行日／2025年(令和7年)7月1日

編集・発行／公益財団法人 京都市文化観光資源保護財団 事務局
京都市東山区三条通大橋東二町目73番地2 京都三条大橋ビル3階
TEL 075-752-0235 <http://www.kyobunka.or.jp>
印刷／株式会社メディアフラン
TEL 055-0011-0005